

【カエルグループ】

樹林と湿地がセットになった環境（谷戸）の存在を指標し、シュレーゲルアオガエル、ヤマアカガエル、ニホンアカガエルを含みます。シュレーゲルアオガエルは、谷戸が残された愛宕山北側などに多く、鷹取山山麓や金目川沿いの斜面林、三笠川沿いの水田などでも確認されました。ヤマアカガエル、ニホンアカガエルもシュレーゲルアオガエルと同様に水田や谷戸で確認されました。

【ニホンアカガエル】 アカガエル科

本州から九州までの平地や丘陵地に生息します。体色はあざやかな橙色です。繁殖期は春先早く（1月～3月）、日当たりのよい水田や湿地の浅い水たまりなどに産卵します。

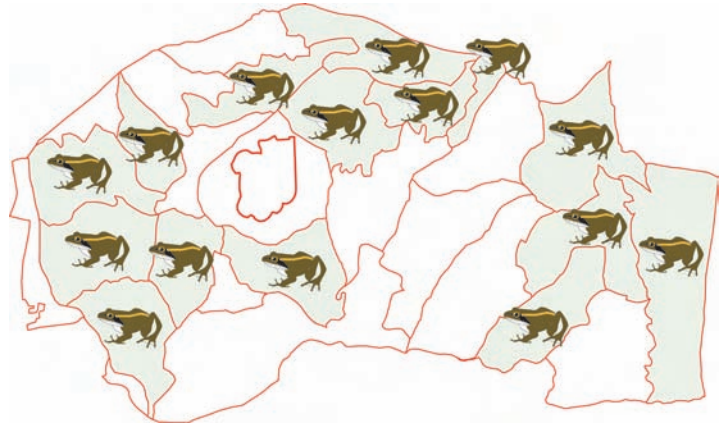
【ヤマアカガエル】 アカガエル科

本州から九州までの山地や丘陵地の樹林内に生息します。初春の産卵期に水田や水辺などにあらわれます。ニホンアカガエルに似ており、分布には重なりがありますが、ニホンアカガエルよりも山地に生息するといわれています。

【シュレーゲルアオガエル】

アオガエル科

本州から九州までの、平地から亜高山帯までに分布します。緑色で、アマガエルより大きく、コココ…と聞こえる声で鳴きます。3月～6月に、水際の斜面に巣穴を掘り、白い泡状の卵塊^{*24}を産みつけます。



ニホンアカガエル



ヤマアカガエル



シュレーゲルアオガエル

【生息環境】

樹林と田んぼなどの湿地がセットになっていることが条件です。

（土屋 2004年5月26日）



*24 卵塊：カエルなどが産む卵の塊。泡状のものやゼリー状のものがある。

【ホタルグループ】

良好な水辺環境があることを指標し、ゲンジボタルとハイケボタルの2種を含みます。ゲンジボタルは溪流を好み、ハイケボタルは用水路などの緩やかな流れを好みます。いずれの種も、生息のためには産卵や幼虫の生息場所となる河川と、さなぎとなるための土手が分断されずに存在していることが条件となります。愛宕山北側や駒ヶ滝、鷹取山山麓で確認されたほか、金目川沿いの水田や神奈川大学周辺でも確認されました。

【ゲンジボタル】 ホタル科

本州から九州に生息する日本特産のホタルで、ハイケボタルより大きく、強く発光します。成虫は、5月中旬～6月頃、ハイケボタルより短い期間に集中して発生します。川幅があまり広くない浅い溪流に多くみられます。比較的きれいな流れがあり、産卵する水辺に苔が生えていることが重要です。幼虫は、カワニナなどをエサとします。成虫だけでなく幼虫やさなぎも発光します。



ゲンジボタル

【ハイケボタル】 ホタル科

北海道から九州までの、流れの緩やかな湿地に生息するホタルです。市内での成虫の発生は6月～7月頃で、谷



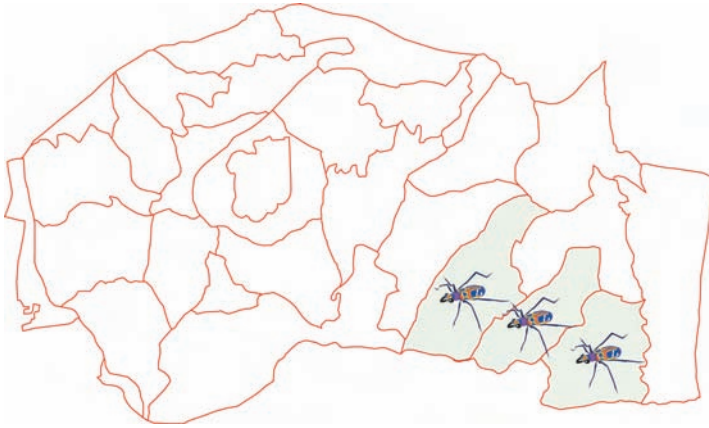
戸の水田や湿地で観察することができます。幼虫はモノアラガイなどをエサとします。水田や用水路などに生息するため、人間の生活の変化や農薬などの影響を受けやすく、近年減少しています。



ハイケボタル

【ハンミョウ】

生息には、まとまりのある樹林が必要であるため、大規模で良好な状態に保たれた樹林があることを指標します。林縁の裸地や開けた場所をよくみかけますが、鷹取山山麓でのみ確認されました。まとまりのある緑は土屋の愛宕山周辺にも存在しますが、こちらでは確認されていません。同じ緑でも鷹取山の方がうっそうとした樹林であることを示しています。



【生息環境】

まとまりのある、うっそうとした樹林を含む環境です。(吉沢 2004年5月11日)



ハンミョウ

【ハンミョウ】 ハンミョウ科

本州から九州に分布する地上性の甲虫で、幼虫、成虫ともに肉食性です。山地、平地を問わず生息しますが、まとまりのある樹林が必要です。

【生息環境】

水田や水田脇の水路。エサとなるカワニナやモノアラガイが生息していることを条件とします。(土屋 2004年10月15日)



【クロカナブングループ】

小規模でも林が存在することを指標し、クロカナブン、ゴイシシジミ、ゴマダラチョウ、トビナナフシ、ジャコウアゲハを含みます。これらの種は、食草や樹液などがあれば生息できるため、分布が局地的な場合もあります。確認された場所は、まとまりのある樹林の林縁や住宅、樹林、畑地が混在する比較的平坦な地域でした。



【クロカナブン】 コガネムシ科

本州から九州に分布します。カナブンよりもややまれで、幼虫は朽ち木などを食べます。成虫の発生時期は遅く、8月になって確認されることが多いようです。



クロカナブン

【トビナナフシ】 ナナフシ科

本州から沖縄本島まで分布しています。メスは緑色、オスは茶褐色です。

触角は、前足よりはるかに長いことが特徴です。草食性で、食草はおもにブナ科の樹木です。



トビナナフシ

【ゴイシシジミ】 シジミチョウ科

北海道から九州に分布します。成虫は暖地で5月～11月に姿がみられ、一年に5回～6回発生すると推定されています。日本では、数少ない肉食性のチョウです。エサの関係から生息地は局地的です。

【ゴマダラチョウ】 タテハチョウ科

北海道から九州に分布します。成虫は通常、年2回、5月～6月と7月～8月に発生します。成虫は、人家周辺の雑木林や竹藪に多く生息し、樹上を緩やかに旋回するように飛びます。

【ジャコウアゲハ】 アゲハチョウ科

本州から南西諸島まで分布しますが、産地は局地的です。本州中部以北では年2回、4月下旬より出現します。成虫は、緩やかに飛び、林内で休息します。



【生息環境】

樹林を含む環境。小規模でも林があれば生息可能です。

(土屋 2004年10月15日)



ゴイシシジミ



ゴマダラチョウ



ジャコウアゲハ (雌)

【シマアメンボ】

一年を通じて水の流れるきれいな小川があり、岸辺に水草などが豊富にある自然な護岸であることを指標します。土屋の駒ヶ滝や愛宕山北側、吉沢の霧降りの滝下流（宮下川）や不動川で確認されました。



シマアメンボ

【シマアメンボ】 アメンボ科

山地の渓流や平地の湧水の流れに生息します。多くの個体は翅（はね）をもちませんが、時期や場所によっては黒色の長い翅（はね）をもつものもあらわれます。



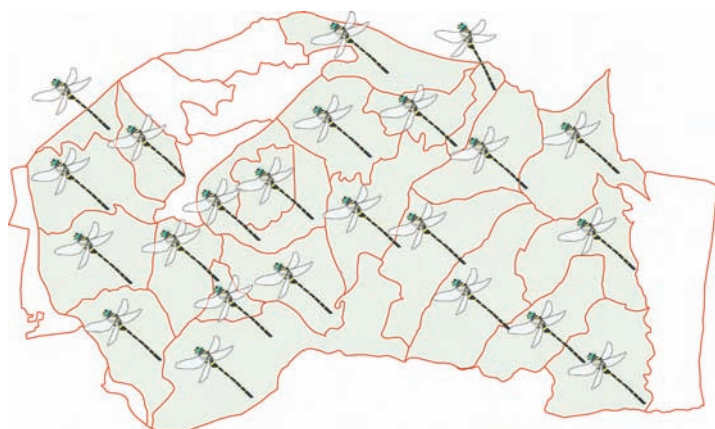
【生息環境】

常に水の流れるきれいな小川と、護岸されていても水辺と岸辺につながるのことが条件です。

（土屋 2004年10月15日）

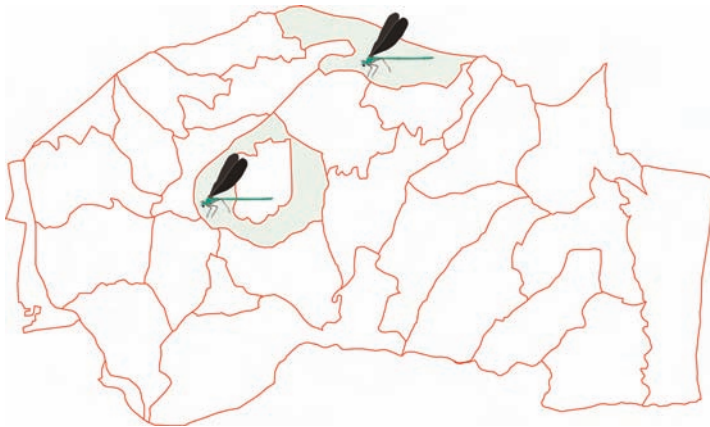
【オニヤンマ】

小川や湿地の細流があることを指標します。幼虫時代を細流で過ごすため、生息には護岸されていない流れが必要です。飛翔能力が高く、若い成虫は水辺から離れた場所で過ごすことから、分布生息地は平地から山地までの広範囲にわたります。西部丘陵地域では、水辺や比較的樹林に近い場所などで確認されました。



【ハグロトンボ】

環境改変の程度が少ない、緩やかな流れを指標します。水辺から離れることは少なく、水質がそれほどよくななくても生息します。やや暗い、樹林に接した流れを好みますが、このような場所が減少しているため、生息数が減っているといわれています。座禅川の上流と金目側沿いの水田が広がる地域で確認されました。



ハグロトンボ



【生息環境】

環境改変の程度が少ない、緩やかな河川です。
(土屋 2004年5月14日)

【ハグロトンボ】 カワトンボ科

黒い羽に緑色に輝く胴を持つトンボです。丘陵から低地までの河川や水路に多く、川沿いをヒラヒラとゆっくり飛びます。きれいな流れのある中流域に多いトンボですが、流れの滞った場所にも出現することがあります。



オニヤンマ

【オニヤンマ】 オニヤンマ科

日本全土に分布し、日本産トンボ類のなかでは最大の種です。黒の地色に黄色の縞模様があり、ぶら下がるようにとまります。

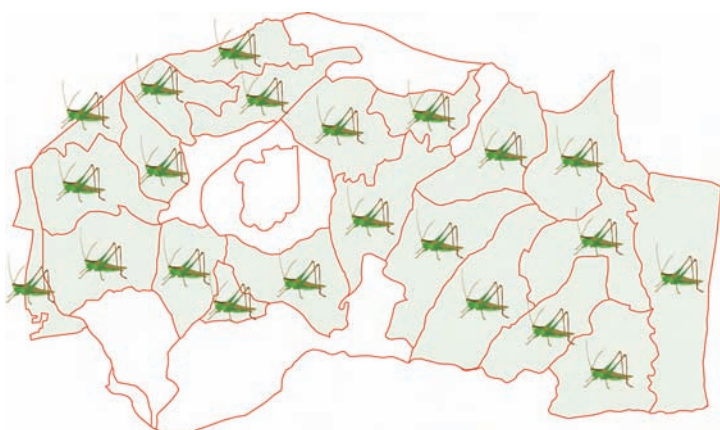


【生息環境】

小川や湿地の細流がある環境。ヤゴのエサとなる昆虫や小魚のすむ水辺です。
(土屋 2004年4月19日)

【オナガササキリ】

チガヤなどの草地の存在を指標します。かつては市街地の草地でもみかけた種ですが、草地の減少とともに少なくなりました。調査地域内では多くの地点で確認されましたが、市内や県全体で見ると少なく、西部丘陵地域には良好な自然環境が残されていることを示しています。



【生息環境】

チガヤなどのイネ科植物がみられる草地です。

(土屋 2004年10月8日)

【オナガササキリ】 キリギリス科

本州から九州までの明るい草原や林周辺のササ原に生息します。成虫は、明るい緑色で薄茶色の翅（はね）をもち、メスは、とても長い産卵管をもっています。8月～10月に出現します。



オナガササキリ

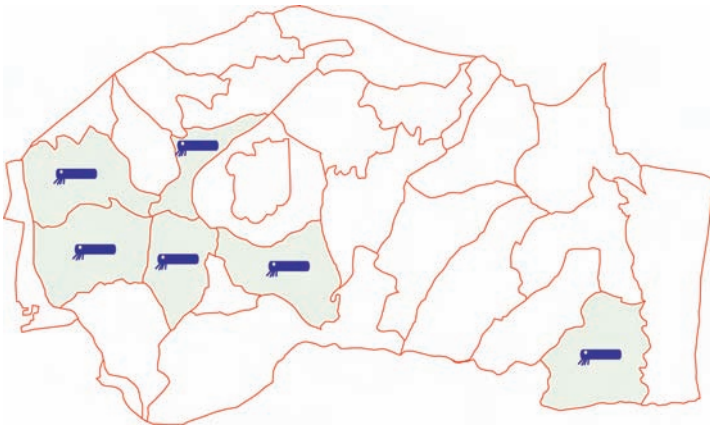
【ドジョウ】

水路と水田などの湿地との行き来ができる環境が残されていることを指標します。平地の池や水田、流れの緩やかな水路の泥場を好みます。水路から池や水田などに侵入して産卵します。西部丘陵地域では、おもに座禅川とその流域の水田、水路で確認されました。不動川流域での確認は少なく、ここでは水路と水田の行き来ができない水系であることが推測されます。



【ホトケドジョウ】

農薬や家庭雑排水の影響が少なく、夏季でも水温があまり上昇しない安定した流れがあることを指標します。一年を通じて一定の水量があることが必要です。また、産卵のための水草があるような自然の河川であることも大切です。西部丘陵地域では、愛宕山近くの座禅川上流部と不動川支流のみで確認されました。



【生息環境】

湧水があるなど、年間を通してあまり温度変化しない流れが条件です。
(土屋 2004年4月26日)



ホトケドジョウ

【ホトケドジョウ】 ドジョウ科

全長約 12cm のドジョウです。全国に分布し、水田や湿地、周辺の細流に生息します。上流と下流が分断されていないような河川では広く分布します。

【ドジョウ】 ドジョウ科

ほぼ全国に分布します。大きさは約 12cm になり、水田や湿地、周辺の細流に生息します。



ドジョウ



【生息環境】

水路と湿地の行き来ができる、泥場を含む環境が条件です。
(土屋 2004年4月7日)

【ヨシノボリグループ】

比較的水がきれいな川の中流域で、河川改修が行われていない、または、改修後の年月を経て安定した環境であることを指標し、トウヨシノボリ、シマヨシノボリ、シマドジョウ、アブラハヤを含みます。このグループの多くは、砂礫の川底（アブラハヤでは砂泥でもよい）がある河川を好みます。座禅川やその支流、流域の水田や不動川で確認されました。



【アブラハヤ】 コイ科

全長約 13cm 前後で、本州のみに生息します。おもに河川の上流域から中流域に生息し、雑食性です。うろこが小さく、体表面はぬるぬるしていることから、アブラのついたようなハヤの意味で和名がつけました。



アブラハヤ

【シマドジョウ】 ドジョウ科

全長 6cm ~ 14cm のドジョウです。地方によって大きさに差があり、関東地方では 6cm ~ 8cm と小型です。肌色で、円形ないし楕円形の黒色の斑紋があることが特徴です。日本の固有種で、本州と四国に分布します。河川では、中流域から下流域上部にかけての砂底や砂礫底に生息します。



シマドジョウ

□ *25 平瀬：河川の流れのうち、水深が浅く流れが速いが白波は立っていない場所をいう。

【シマヨシノボリ】 ハゼ科

全長約 7cm 前後で、本州以南の河川中流域に生息します。平瀬^{*25}を好み、雑食性で、石に付着した藻類や水生昆虫をエサとします。体側に約 6 個の明瞭な横斑があることが特徴です。



シマヨシノボリ

【トウヨシノボリ】 ハゼ科

従来、ヨシノボリの橙色型とされてきましたが、最近では別種として分類されています。

全長約 7cm 前後で、体側には 6 個～7 個の暗色の横斑が相互に繋がって並ぶ模様が特徴です。全国の河川や汽水域^{*26}に生息し、雑食性です。地域や個体により多様な形状、色彩をしています。



トウヨシノボリ



【生息環境】

比較的水のきれいな河川。川底に砂礫のある河川を好みます。(土屋 2004 年 4 月 7 日)

*26 汽水域：河川などから流出する淡水と、海水が混ざりあう中間的な塩分濃度の水が存在する河口域や内湾のことをいう。

◇指標動物の分布状況

*分類 指標種グループ 指標種	小地区番号																												
	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29
*鳥類																													
サンコウチョウグループ																													
サンコウチョウ									●																				
サンショウクイ											●																		
オオルリ			●							●		●																	
キビタキグループ																													
キビタキ	●	●	●				●		●	●	●	●			●			●											
ホトトギス																									●				●
アオゲラ	●	●		●	●			●	●	●	●	●		●	●	●			●			●	●				●		
ヤブサメ		●							●		●																		●
センダイムシクイ										●																			
イカル		●																					●						
ヤマガラグループ																													
ヤマガラ	●	●	●		●		●		●	●	●	●	●	●	●		●		●	●	●						●	●	
コゲラ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ウグイス	●	●	●	●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
エナガ	●	●			●				●		●								●			●						●	
メジロ	●	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		●	●				●	●	●	●	●	●	●	●
セッカグループ																													
セッカ																													
オオヨシキリ	●	●						●							●		●	●										●	
ヒバリグループ																													
ヒバリ	●	●		●		●				●		●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
キジ	●													●		●				●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ヤマセミグループ																													
ヤマセミ															●	●													
イカルチドリ																										●			
キセキレイグループ																													
キセキレイ	●						●																						
コチドリ																				●	●								
カワセミ																		●	●	●		●							
セグロセキレイ																				●	●								●
コサギグループ																													
コサギ														●						●							●	●	
コイサギ														●						●									
ダイサギ														●						●									
ハクセキレイ	●	●				●				●		●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
猛禽類グループ																													
オオタカ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
ノスリ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
サシバ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
*両生類																													
カエルグループ																													
ニホンアカガエル	●	●		●			●								●		●	●											
ヤマアカガエル	●	●		●	●		●								●		●	●								●	●		
シュレーゲルアオガエル	●	●	●	●	●		●			●	●				●		●					●	●			●			
*昆虫類																													
ホタルグループ																													
ゲンジボタル	●	●									●	●																	
ハイケボタル	●	●					●					●	●										●						
ハンミョウ																													
ハンミョウ									●	●		●																	
クロカナブングループ																													
クロカナブン	●	●						●										●											
トビナフシ					●				●	●		●								●			●						●
ゴイシシジミ												●							●				●						●
ゴマダラチョウ															●	●					●								●
ジャコウアゲハ	●				●			●					●																●
シマアメンボ																													
シマアメンボ	●	●								●	●	●																	
ハグロトンボ																													
ハグロトンボ													●											●					
オニヤンマ																													
オニヤンマ	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
オナガササキリ																													
オナガササキリ	●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●			●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●
*魚類																													
ホトケドジョウ																													
ホトケドジョウ	●	●		●		●					●			●															
ヨシノボリグループ																													
アブラハヤ		●			●				●					●	●								●						
シマドジョウ																		●				●							
シマヨシノボリ		●			●						●	●	●	●	●		●					●			●				
トウヨシノボリ										●													●						
ドジョウ																													
ドジョウ	●			●		●							●	●	●		●						●	●			●		

【貴重な動植物】

指標種の中で、希少性の高い種の一覧を右表に示しました。

「種の保存法」は正式名称を「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」といい、1992年に制定されました。この法律では、国内で絶滅のおそれのある野生動植物の種を「国内希少野生動物種」として指定し、指定種の採取、保持、譲渡が禁止されているほか、法律の第2条で、「地方公共団体は種の保存の為の施策を策定し、実施することに努めなければならない」また、「国民は、国や地方公共団体が行う施策に協力し、種の保存に寄与するよう努めなければならない」と規定されています。

「レッドデータブック」は、絶滅のおそれのある種のリストを1991年に環境庁（今の環境省）がとりまとめた本のことで、2000年以降に改訂版が発行されています。さらに、野生生物の生息状況は地域によって異なるため、各都道府県がそれぞれの地域のレッドデータブックを作成しています。レッドデータブックの掲載種は、種の絶滅危険度を評価したもので、規制など法律上の効果を持つものではありませんが、野生生物の保護を進めていくための基礎資料として利用することを目的として作成されたものです。

◇貴重な生物一覧

種	種保	環	神
キンラン		VU	
エビネ		VU	Ⅲ-H
サンコウチョウ			Ⅲ-H
オオルリ			Ⅲ-H
サンショウクイ		VU	Ⅲ-G
ヤブサメ			Ⅲ-H
セッカ			Ⅲ-H
オオヨシキリ			Ⅲ-H
ヒバリ			Ⅲ-H
コチドリ			Ⅲ-G
イカルチドリ			Ⅲ-G
コサギ			Ⅲ-H
ゴイサギ			Ⅲ-G
ダイサギ			Ⅲ-G
オオタカ	国内	VU	Ⅳ-I
サシバ			Ⅲ-G
シュレーゲルアオガエル			Ⅲ-H
ニホンアカガエル			Ⅲ-H
ジャコウアゲハ			Ⅳ-K
ハグロトンボ			Ⅲ-H
オニヤンマ			Ⅳ-L
オナガササキリ			Ⅲ-H
ホトケドジョウ		VU	Ⅱ-F
シマドジョウ			Ⅲ-H
アブラハヤ			Ⅳ-K
シマヨシノボリ			Ⅳ-L
トウヨシノボリ			Ⅳ-J
ドジョウ			Ⅳ-L

○種保＝絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律（通称「種の保存法」）

国内：国内希少野生動物種（国内で絶滅の恐れのある種）

○環＝「改定・日本の絶滅のおそれがある野生動物－レッドデータブック－」（環境省）による緊急に保護を必要とする動植物（又は亜種）

VU：絶滅危惧Ⅱ類（現在の状態をもたらした圧迫要因が引き続き作用する場合、近い将来「絶滅危惧Ⅰ類」のランクに移行することが確実と考えられるもの）

○神＝「神奈川県レッドデータ生物調査報告書」（神奈川県）によるレッドデータ度

I（A～C）：絶滅種（かつて県内に広く分布していたが、現在は県内から確認できなかったもの）

II（D～F）：絶滅危惧種（県内に分布しているが、過去と比較すると分布域が狭まり、このままでは県内での生育・生息が危ぶまれるもの）

III（G・H）：減少種（過去と比較すると分布域が顕著に狭まってきているが、当面は将来にわたって県内での生育・生息が続くと判断されるもの）

IV（I～L）：健在種（県内での分布状況が過去と現在でそれほど違いがないもの）